

県医師会・健やか力推進センター

短命県返上へ来月始動

産学官連携 健康リーダー育成

県医師会(齊藤勝会長)は4月、県や弘前大学、民間企業などの協力を得て青森市の県医師会館内に「健やか力推進センター」を開設する。研修会を通して健康リーダーを育成し、健康施策を進めることで短命県返上を目指す。センター長には、弘前大学大学院医学研究科の中路重之科長(63)が就任する。(菊谷賢)

センターは、同会館の6階に設置。専任スタッフを4人配置する。運営費用は、医師会の事業費、民間企業の寄付、県の人材育成事業費などで賄う。

人材育成研修は原則2日間。市町村などから要請があれば、センターと連携する医師、歯科医、保健師らが地域に出向いて、地元の人材育成リーダーとなりうる人

に健康教養を伝える。初日は、がん、血圧、認知症などをテーマに健康教養について講義した後、

血圧、骨密度、運動機能の測定法などを伝える。2日目は、運動指導士らの指導で、実際の運動法を体験

センター長に 根の張った取り組みに 弘大・中路氏

「健やか力推進センター」のセンター長に就任する中路重之・弘前大学大学院医学研究科長にセンター開設の理由や狙いを聞いた。

「健康づくりを進める機関は、県庁や保健所、市役所などにもある。なぜセンターが必要か。

「健康づくりの取り組みは各地にあるが、打ち上げ花火で終わらず、継続した根の張ったものにしなればならない。人材育成しながら、健康施策を継続することが重要。多くの関係団体が連携して健康づくりの『ペダル』を踏み続ける拠点が必要だ」



「健康づくりを継続的な取り組みにしていきたい」と語る中路氏=12日

してもらおう。ワークショップでは健康施策について自由に話し合い、リーダーとしての意識を高めてもらう。

研修会1回の参加者を50人と想定し、2015年度は10回程度開催。5000人の健康リーダーを育成する計画。齊藤会長は「産学官が連携し、住民の身近で活動する人材を育成するのは画期的な試み。短期の活動で終わらず、継続的な取り組みとして続け、短命県返上の施策をも一つ一歩進めたい」と語った。

「本県の若死にの多さを食い止めるため、どう動く?」「職場、学校現場に積極的に出掛け、正しい生活習慣の大切さ、ヘルスリテラシー(健康教養)を伝える」

「健康知識は人から人へ伝わる。仲間がいないと健康教養は普及しない。長寿日本一の長野では、ちょっとした人の集まりがたくさんあり、それぞれに健康リ

動脈硬化、認知症、腸内細菌など幅広く膨大なデータが蓄積されている。世界に類例を見ないビッグデータをセンター主催の研修にも生かす」

「健康づくりを通して人

「健康づくりを通して一番主張したいことは?」「健康づくりを通して人

「健康づくりを通して一番主張したいことは?」「健康づくりを通して人

「健康づくりを通して一番主張したいことは?」「健康づくりを通して人

「健康づくりを通して一番主張したいことは?」「健康づくりを通して人